

多文化共生社会における 福祉の役割

～支援から参加、活躍へ～

外国人住民が地域の担い手として参加し、活躍する多文化共生社会をどのように実現していくのか。本フォーラムでは、兵庫県内で多文化共生に取り組む社会福祉協議会の実践事例を紹介し、地域福祉の中核を担う社会福祉協議会の役割や多機関連携の可能性について考えます。

日時 2026
3 / 17 火 14:00～16:30

定員 会場 60名 (先着順)
オンライン 80名

会場 神戸市中央区文化センター 会議室1001+1002
(神戸市中央区東町115番地 10階)
ハイブリッド形式 (対面+Zoom)

費用 無料

対象

- ・社会福祉協議会の職員
- ・国際交流協会の職員やボランティア
- ・福祉や多文化共生に関わる活動を実施している、または関心のある方

プログラム 前半だけの参加も可能です。

<前半> 14:00～15:30 (開場 13:30～)

■ **基調講演「社会福祉分野と多文化共生分野の連携」**

吉富 志津代さん 武庫川女子大学心理・社会福祉学部教授、国際センター長

■ **事例紹介「社会福祉協議会による多文化共生分野との連携の取り組み」**

大村 和也さん 三田市社会福祉協議会 総合相談支援センター課長

「外国ルーツの仲間と共に地域で暮らしていくために」

森 真美さん 川西市社会福祉協議会 地域福祉チーム主査
地域福祉担当 兼 生活支援コーディネーター

■ **論点整理・質疑応答**

<後半> 15:40～16:30

■ **グループディスカッション・総評**

お申込み

3月10日(火)までに、以下のURLまたは右記のコードよりお申込みください。
<https://forms.gle/H2jg2w1BsCS1RBk57>

お問合せ

公益財団法人PHD協会

TEL: 078-414-7750 FAX: 078-414-7611 メール: info@phd-kobe.org



講師紹介

■ 基調講演



吉富 志津代 さん

武庫川女子大学心理・社会福祉学部教授、国際センター長

南米の領事館秘書を経て、1995年の阪神・淡路大震災後は多言語環境の促進、外国ルーツの青少年育成を切り口に市民団体を設立。外国人自助組織の自立支援活動にも従事し、これらを主な研究テーマとする。その他、NPO法人多言語センターFACIL特別顧問など。

■ 事例紹介



大村 和也 さん

三田市社会福祉協議会 総合相談支援センター課長

2000年4月入職。以降、ボランティア・地域活動支援、地域包括支援センター、介護サービス部門、総務、総合相談体制づくりを担当し、「自分らしく安心して暮らす共生の地域づくり」を地域住民の皆さまとともに、取り組み中。今回お話しする内容をまとめた冊子『社会福祉×多文化共生 ひろがる支え合いの輪』（発行 PHD協会）は[こちら](#)



森 真美 さん

川西市社会福祉協議会 地域福祉チーム主査
地域福祉担当 兼 生活支援コーディネーター

2008年、川西市社会福祉協議会へ入職、日常生活自立支援事業、養護老人ホーム、成年後見支援センター等を担当。滞日外国人ソーシャルワーク研修を受講した後、コロナ特別貸付をきっかけに多文化共生に取り組む。現在、外国人やひきこもりの方も含めた住民主体の地域づくりに取り組んでいる。

■ 論点整理



長谷部 治 さん

神戸市社会福祉協議会
地域支援部 課長

岐阜県関市出身。大学時代に阪神・淡路大震災を契機にボランティアとして神戸へ来たことをきっかけに社会福祉協議会に入職。以降30年間、福祉教育・ボランティア学習やボランティアセンターの担当。現在は地域福祉ネットワークワーカーとして『ひとりの人を救う経験を社会の仕組みに』をスローガンに活動中。



福本 良忠 さん

兵庫県社会福祉協議会
地域福祉部長

大阪府出身。10代終わりに阪神・淡路大震災でボランティアとして西宮へ来たことは関係なく、後年縁あって、兵庫県社会福祉協議会に入職。地域福祉、施設福祉、権利擁護に係る後方支援の他、経理総務も長く担当。現在は県内社協とともに地域福祉を推進する部署で、『ひとり論語と算盤』をストレングスに在任中。

主催



エフエムわいわい



PHD協会

共催



兵庫県社会福祉協議会

後援



兵庫県国際交流協会

企画・運営

福祉×多文化共生フォーラム実行委員会